

令和6年度「関西広域産業ビジョン」推進会議 概要

- 【日 時】 令和6年9月27日(金)14:00～16:00
- 【場 所】 大阪工業大学 梅田キャンパス OIT 梅田タワー 3階
会議室 301、302
- 【出席者】 別紙名簿のとおり

【議 事】

- (1) 令和6年度広域産業振興局事業の中間報告並びに令和7年度広域産業振興局事業及び予算(案)について(資料1)
- (2) 「関西チャレンジ」に基づく取組の推進に関する指標の設定について(資料2)
- (3) その他(関西広域産業ビジョン周知のお願い)

【委員からの主な意見】

- (1) 令和5年度広域産業振興局事業の中間報告並びに令和6年度広域産業振興局事業及び予算(案)について
 - ・ 関西広域連合は、関西を束ねるが、予算規模は圧倒的に小さい。改訂ビジョンでは、連合が役割を発揮するための基本的なアプローチと関西の発展に向けた指針を描いた。今後、ビジョンに基づき、限られた予算の中でいかに最大の効果を出せるかが重要なポイントであり、そういった観点から意見交換したい。
 - ・ 準備にしっかり時間をかけ、周知に力を入れるとさらに良くなるのではないかと。
 - また、取組が年度後半に固まると、ひとつひとつへの比重が薄くなるため、各年度ごとで途切れることなく、都度、取組への反省、振り返りをしっかり行い、次年度に活かしながら、年度前半から計画的に取り組むことにより、全体の負荷も下がり、さらに充実した取組になっていくのではないかと。
 - ・ 各府県市がどれくらい関わりがあったか、企業の参加がどれくらいあったかが見えるような形になれば、広域連合としての取組の意義が見えてくる。
 - ・ 万博関連事業について、広域連合の取組に関連する府県市がどのよう

に関わっているのかなど、事業の見せ方を工夫することが大事。広域連合が目玉として実施する取組は、メディアへの訴求も含めて特出しを意識してもらいたい。

- ・ 企業が参加する事業については、参加企業の府県別内訳に加えて、参加して良かった点やもう少し工夫してほしい点など、企業からの代表的な声があれば、事業の現状がさらにわかりやすくなるのではないか。

万博関連事業について、来年度は万博開催年のため、もう少しボリューム感のある、集中した取組があってもいいのではないか。

- ・ 近畿経済産業局のホームページを見ると、ガイドブック等の訴求力を高めるため、実際の企業の事例や声などが掲載されている。関西広域連合においても、今後の広報に打ち出してってもらいたい。

- ・ 他組織の先行した取組を参考にしつつ、重複はしないよう、整理をしながら取り組んでいくべき。

また、個別企業の事例については、マクロデータではなく、もっとブレイクダウンした事例があればわかりやすい。

- ・ 関西広域連合として、産業振興に関するビジョンをまとめるのは良いことであり、今後そのビジョンを周知していくことが必要。現ビジョンはカタカナや横文字が非常に多い印象があり、伝わりやすさ・分かりやすさの観点からは、言葉の使い方にも注意する必要がある。

また、個別事業について、成果として目標値を大きく上回るようになってきた場合には、その数値を見直すことも必要ではないか。

- ・ ビジョン改訂において、カタカナや英語を使う場合には注を付すなど、言葉の使い方は工夫した。

また、目標の見直しについては、目的も含めて中間での見直しを排除するのではなく、適切な範囲の中で、柔軟に随時の対応ができることが大事ではないか。

(2) 「関西チャレンジ」に基づく取組の推進に関する指標の設定について

- ・ モニタリングしやすい指標を追いつつ、関西の特性の情報発信の一環として捉えてみてはどうか。ライフサイエンス・ヘルスケアやグリーン、カーボンニ

ユートラル、MaaS については、数字による実態把握は極めて難しいので、民間の定性的な調査データを活用するのが良い。

- ・ 空飛ぶクルマ・MaaS については、広域連合の取組との関係が分かりづらく、浮いている印象を受けた。
また、輸出入比率については、解釈が難しいところがあるため、通関額とあわせて見ていく必要がある。今まで横浜で輸入していたものを神戸で輸入するのは良いこと、プラスだと思うが、この場合、輸入額の比率が大きくなってしまうことになる。
- ・ 輸出比率の高い中小企業が成長傾向にあるという過去の実証分析から、センサス等による中小企業のデータと輸出入比率をあわせて見ることで、海外市場を相手に頑張る中小企業の状況把握が可能。
輸出入貿易では、細かな品目までデータが取れるので、関西でどのような特色があるか、詳細なところまで見るのに手間はあまりかからない。
- ・ 全国と比較するという意味で、二次データにより定量的に測っていくことは重要だが、関西広域産業ビジョンを策定し、関西経済の成長のために取り組んできた結果について、定性的なデータを取ることはできないか。
また、広域連合が実施した事業に関する企業の満足度を年に1回は求めていくといいのではないか。
- ・ 現状を見るという意味では、アニュアルレポート(年次報告書)が大事。
先行きの変化を読み取るという観点でいうと、ウェルビーイング関連の指標が足りないのではないか。
- ・ 産業に特化した指標のため、今回は入っていないとの理解だが、ウェルビーイング関連でいうと、住みやすさの観点が大きくなることから、医療や教育の状況などの指標が考えられる。
- ・ 中長期で考えた場合、労働の払底、供給制約の問題は非常に大きい。変化の兆しを読み取るということ言えば、外国人雇用を含めてこの制約をどうしていくのかというところもある。
- ・ リーサス等を活用し、人口動態や雇用動向、お金の流れなど、関西のヒト・

モノ・カネの動きを時間軸で追えば、面白いデータが取れるのではないか。

- ・ 個別産業の動きを追うのであれば、産業別の出荷額や事業者数、雇用数、設備投資額などのデータにより、現状や将来的なところの把握が可能。
近畿経済産業局のホームページを見ると、近畿圏の現状に関するいろいろな統計を毎年出されているので、活用してはどうか。
- ・ 大学進学率や入学定員に対する充足率などを加えてはどうか。
中小企業のデジタル化率について、デジタル化をどう定義するのか。パソコンの導入はデジタル化ではなく、どうDX化していくかが大事と考える。
- ・ 指標を増やしすぎて自分の首を絞めることがないよう、また、数字を追うことで満足してしまうことにならないよう、注意が必要。
- ・ デジタル化については、情報セキュリティや、デジタル人材や関連した部署にどれだけ投資をしているかなど、複数の指標により現状を把握しているものであり、それを定点的に観測していく。
- ・ 指標については、委員意見をふまえた整理を行いつつ、コストパフォーマンスを考えた的確に判断できるものを設定し、発展的に進めていくことになる。委員が知恵を絞り、広域連合ならではの大胆な指標の見方にチャレンジしていくのも面白い。

(3) その他(関西広域産業ビジョン周知のお願い)

- ・ 関西広域連合として考えたときに、小学生や中学生など将来のステークホルダーや訴求先となる人々に対し、関西の産業の認知度向上を図っていくことも必要ではないか。

以上